

四

淺井佐一郎 檢閱
多治比裕雄 編輯

刑法新令類集

明治十五年三月印行

第14
330

淺井佐一郎 檢閱
多治比裕雄 編輯

刑法新令類集

明治十五年三月印行

刑法新令類輯初編目錄

第一章 刑法布令

- 第一款 刑法頒布ノ事
- 第二款 刑法治罪法實施ノ事
- 第三款 刑法附則ノ事
- 第四款 各地方違警罪目ヲ定ムル事
- 第五款 大阪府違警罪目ノ事
- 第六款 密賣淫取締徵罰ノ事
- 第七款 諸罰則處斷例ノ事
- 第八款 新舊刑法比照例ノ事
- 第九款 刑ノ執行ヲ免レタル者ニ對シ令狀ヲ發スル事

二 第二章 治罪法布令

- 第一款 治罪法頒布ノ事
- 第二款 各裁判所位置及ヒ管轄區畫ノ事
- 第三款 重罪裁判所管轄區畫ノ事
- 第四款 小笠原島裁判事務ノ事
- 第五款 伊豆七嶼裁判事務ノ事
- 第六款 北海道及ヒ沖繩縣裁判事務ノ事
- 第七款 裁判所名稱改正ノ事
- 第八款 被告人逮捕ノ地裁判管轄ノ事
- 第九款 商船内犯罪取扱規則ノ事
- 第十款 違警罪審判便宜取計ノ事
- 第十一款 府縣警察署違警罪裁判ノ事

- 第十二款 治安裁判所ニ輕罪裁判所ヲ開ク事
 - 第十三款 同上檢事職務ノ事
 - 第十四款 陪席判事及ヒ補充判事ノ事
 - 第十五款 控訴上告及ヒ證人呼出費用ノ事
 - 第十六款 司法警察官ノ事
 - 第十七款 無能力者并ニ法律上代人及ヒ民事擔當人ノ事
 - 第十八款 准現行犯ノ事
 - 第十九款 勾引シタル被告人留置ノ事
 - 第二十款 諸令狀及ヒ宣誓書式ノ事
 - 第二十一款 書類送達制限ノ事
 - 第二十二款 使丁規則ノ事
 - 第二十三款 家宅搜索ノ事
- 三

四

第二十四款 同上司法警察官へ囑託ノ事

第二十五款 司法官吏兵力ヲ要求スル手續ノ事

第二十六款 司法警察官令狀ヲ發スル事

第二十七款 責付手續ノ事

第二十八款 大審院諸裁判所所屬代言人規則ノ事

第二十九款 公庭取締ノ事

第三十款 裁判書謄本ヲ求ムル費用ノ事

第三十一款 犯人證人押印ノ事

第三章 雜令

第一款 各省事務章程通則ノ事

第二款 新法實施前ノ刑事審判ノ事

第三款 治安始審兩裁判所權限ノ事

第四款 人民ヨリ官府ニ對スル詞訟管轄ノ事

第五款 監獄則ノ事

刑法新令類輯初編

淺井佐一郎 閱
多治比裕雄 編輯

○第一章 刑法布令

○第一款 刑法頒分ノ事

明治十三年七月十七日第三十六號布告

刑法別冊ノ通改定候條此旨布告候事 (別冊略ス)

但實際施行ノ期日ハ追テ布告スヘキ事

○第二款 刑法治罪法實施ノ事

明治十四年七月八日第三十六號布告

一 刑法治罪法來明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

二 ○第三款 刑法附則ノ事

明治十四年十二月十九日第六十七號布告

刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス右奉
勅旨布告候事

別冊 刑法附則目錄

第一章 主刑執行

第二章 監視

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第四章 刑事裁判費用

第五章 賠償處分

刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立
會典獄ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キトテ告示シタル後押下テシテ
之ヲ執行セシム但其期限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑
場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタ
ル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

三

四 仁孝天皇祭

神武天皇祭

六月大祓

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天長節

後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆
ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上

申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決
行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時
ハ典獄之ヲ許可シ下付スルヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ
許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其
罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

五 第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄管理長官ヨ

六

リ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自テ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許ス可シ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ己ムコトヲ得サル事故アル時

ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直ニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自テ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

七 第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未ダ納完セサル前ニ於テ犯人身死

スル時ハ之ヲ徴收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止テ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ典獄若クハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警

察所ニ送致ス可シ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ

犯ハテ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

九 一毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出

シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムトテ得サル事故アリテ
警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ
受ク可シ

四擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ已ムトテ得サル事故ア
ル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可シ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期限閉ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ヲ臨檢スル
トアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許シタル時ハ其事由
ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送
ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先
方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可
シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印
ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由
ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警
察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限閉
監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ
在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居

ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ悔改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實質ヲ上中シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレノヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日
- 二 殘期何年何月何日閒假出獄ヲ許ス事
- 三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事
- 四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

四一

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日

典獄ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ

特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五

條第二十六條第二十七條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限閉左ノ條件ヲ遵守

ス可シ

一 毎週閉一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ

出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリ

テ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受

ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限閉ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢

スルヲアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至ンハ假出獄證

票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル典獄ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ

例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三

十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置ス可シ

五一

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五拾錢

施費一里拾錢

止宿料一宿二拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滞在
中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料
ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ

之ヲ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ

償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルヲアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類

ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人

身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付スト雖モ
若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシム
ル者トス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル

物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス

若シ公商ニ由ラズシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トチ區別シ

第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十八條 贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現

ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラズ

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルヲ得若シ其審判己ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得

〇二

○第四款 各地方違警罪目ヲ定ムル事

明治十四年八月三十一日第七拾七號太政官達 警視廳府縣東京府ヲ除ク

刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルトキハ之ヲ主務ノ省へ届出ヘシ此旨相達候事

○第五款 大阪府違警罪目ノ事

明治十四年十二月一日大阪府甲第貳百五拾壹號布達

當府違警罪目別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

但現行違式註違罪目ハ本年十二月三十一日限り廢止候事
別違警罪

第一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又

ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一 私ニ外國人ヲ雜居地外ニ雜居セシメ又ハ遊歩規程外ニ於テ旅行免狀ヲ持タサル外國人ヲ止宿セシメタル者

二 生河豚ヲ食料ニ賣買シタル者

第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又

ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

一 祭典法會其他諸興行ノ爲メ強テ金錢物品ヲ出サシメタル者

二 斷リナシ人ノ門戸内ニ於テ紙屑其他ノ物品ヲ拾ヒ取りタル者

三 漫リニ諸營業ノ妨ケヲナシタル者

第三條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又

ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

一 官許ヲ得スシテ道路橋梁ノ通行錢ヲ取りタル者

二 新聞紙又ハ雜誌繪草紙ノ類ヲ讀賣シタル者

一二

三 人ニ汚穢物ヲ抛澆シタル者

第四條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

一 官許ヲ得スシテ神佛ヲ開帳シ人ヲ群集セシメタル者

二 官許ヲ得スシテ屋臺太鼓テリモノ等ヲ出シタル者

三 川堀溝渠へ汚穢物又ハ塵芥等ヲ投棄シタル者

第五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

一 屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シテ止宿シタル者

二 大阪及堺奈良五條郡山和岸田貝塚牧方市街町續キノ場所トモニ於テ袒

裼裸体シタル者

三 前項ノ地ニ於テ便所外へ大小便ヲナシタル者

四 大阪市街町續キノ場所トモニ於テ無蓋ノ器具ヲ以テ屎尿ヲ運搬シ又ハ

其定時間ヲ過キタル者

五 制止ヲ肯セス夜ル十二時ヲ過キ歌舞音曲ヲナシタル者

六 官許ヲ得スシテ川中へ杭ヲ立テタル者

七 路上ニ於テ男ニシテ女粧シ女ニシテ男粧シ或ハ奇怪ノ醜体ヲ

ナシタル者

明治十五年一月十三日大阪府甲第六號布達

客年^{十二}月^{十二} 甲第貳百五拾一號ヲ以テ布達候當府違警罪目へ左ノ通追加候條此旨布達候事

第六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又

ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一 當府ノ布達ニ違背シタル者

二 正當ノ事由ナクシテ官署ノ呼出ニ應セサル者

○第六款 密賣淫取締懲罰ノ事

明治十四年十二月九日第六十四號布告

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘトモ當分ノ
内其取締懲罰ハ従前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ヘ委任ス右奉
勅旨布告候事

○第七款 諸罰則處斷例ノ事

明治十四年十二月二十八日第七十二號布告

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノ
ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス可シ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘
留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未満ヲ五錢以
上一圓九拾五錢以下科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ

各可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ
例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依
テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ
於テ之ヲ裁判ス

但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判
スルヲ得

右奉 勅旨布告候事

○第八款 新舊刑法比照例ノ事

明治十四年十二月二十八日第八十一號布告

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ニ從フヘシ

第一條 新舊法比照スルニハ左ノ如シ

新法

舊法

一 死刑

斬絞

二 無期徒刑

懲役終身

三 有期徒刑

禁獄終身

四 無期流刑

五 有期流刑

懲役十年

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

十 重禁錮

十一 輕禁錮

十二 罰金

十三 拘留

十四 科料

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法

ノ刑期ニ過クルヲ得ス 舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ

法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新

法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法

ニ從フ

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法

ニ從フ

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法

ニ從フ

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法

ニ從フ

ニ定役アル時ハ舊法ニ從テ照ラシ一月以上一年以下ニ該ル者新法ニ從テ禁錮ニ處スルノ類

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從テ

但其長期ノ短キ者ニ過ルヲ得ス 舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ刑ニ處スル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從テ

若シ舊法新法ノ刑其短期等ニシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從テ

ハ舊法ニ從テ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ該ル時以下ノ禁錮ニ處スルノ類

第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從テ但舊法ノ金額ニ過クルヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從テ但其多數ノ寡キ者ニ過クルヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從テ

舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從テ

第八條 舊法ニ從テ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換テ但一

圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從テ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從テ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從テ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ

○三

監視ヲ附加セズ

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セズ

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス
右奉 勅旨布告候事

○第九款 刑ノ執行ヲ免ラタル者ニ對シ令狀ヲ發スル事

明治十四年十二月廿八日司法省丙第二十號達 大審院裁判所警視廳
府縣東京府ヲ除ク
新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事

○第二章 治罪法布令

○第一款 治罪法頒布ノ事

明治十三年七月十七日第三十七號布告

治罪法別冊ノ通創定候條此旨布告候事 (別冊略ス)

但實際施行ノ期日ハ追テ布告スヘキ事

○第二款 各裁判所位置及ヒ管轄區畫ノ事

明治十四年十月六日第五十三號布告

各裁判所ノ位置及ヒ管轄區畫別表ノ通改正シ明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

一三

大										控訴
東京										始審
品川	本所區	本郷區	芝區	四谷區	麴町區	淺草區	下谷區	京橋區	日本橋區	安府
東京府										縣
武藏										國名
芝區ノ内 荏原ノ内										區
本所區ノ内 深川區 南葛飾ノ内										郡
本郷區ノ内 小石川區 神田區ノ内										名
芝區ノ内 麻布區 荏原ノ内 南豐島ノ内										
四谷區 赤坂區 東多摩 南豐島ノ内										
荏原ノ内										
麴町區 神田區ノ内 牛込區 南豐島ノ内										
淺草區 本所區ノ内 南足立 南葛飾ノ内										
北豐島ノ内										
下谷區 神田區ノ内 北豐島ノ内										
京橋區ノ内										
日本橋區 京橋區ノ内										

控										京
宇都宮	栃木	土浦	水戸	木更津	千葉	横濱				横濱
宇都宮	栃木	土浦	水戸	木更津	千葉	八王子	小田原	神奈川	横濱	縣
栃木縣	栃木縣	茨城縣	茨城縣	千葉縣	千葉縣	神奈川縣	神奈川縣	神奈川縣	神奈川縣	神奈川縣
下野	下野	常陸	常陸	安房	上總	下總	武藏	相模	武藏	相模
河内	下都賀	猿島	新治	西茨城	全羽	海上	津久井	足柄上	横濱區	久良岐
芳賀	寒川	結城	筑波	那珂	天羽	香取	南	足柄下	三浦	橋樹
鹽谷	安蘇	岡田	河内	久慈	周	取	北	大住	鎌倉	都
那須	築田	伊田	太	多賀	准	匝	西	陶	高	境
	足利	西葛飾	方	鹿島	望	瑳	多	綾	坐	愛
			鹿島	ノ内	陀	長	摩	甲		

判									
上田		長野		松本				甲府	
岩村田	上田	飯山	長野	福島	大町	上諏訪	飯田	松本	谷村
長野縣		長野縣		長野縣				山梨縣	
信濃		信濃		信濃				甲斐	
南佐久	小縣	下高井	上水内ノ内	西筑摩ノ内	東筑摩ノ内	上伊那ノ内	上伊奈ノ内	西筑摩ノ内	東筑摩ノ内
北	南	上高井	上水内ノ内	西筑摩ノ内	東筑摩ノ内	上伊那ノ内	上伊奈ノ内	西筑摩ノ内	東筑摩ノ内
北佐久		上高井		東筑摩ノ内		上伊那ノ内		東筑摩ノ内	
南佐久		上水内ノ内		西筑摩ノ内		上伊奈ノ内		東筑摩ノ内	
小縣		上高井		東筑摩ノ内		上伊那ノ内		東筑摩ノ内	
北佐久		上水内ノ内		西筑摩ノ内		上伊奈ノ内		東筑摩ノ内	

裁									
濱松		静岡		前橋		熊谷		油	
掛川	濱松	沼津	下田	太田	高崎	前橋	大宮	熊谷	和
静岡縣		静岡縣		群馬縣		埼玉縣		埼玉縣	
遠江		伊豆		上野		武藏		下總	
城東	佐野	駿東	伊豆	新田	西群馬	東群馬	秩父	北葛飾	中葛飾
佐野	榛原	富士	那加	山田	碓氷	北勢	秩父	北葛飾	中葛飾
佐野	榛原	富士	那加	山田	碓氷	北勢	秩父	北葛飾	中葛飾
佐野	榛原	富士	那加	山田	碓氷	北勢	秩父	北葛飾	中葛飾
佐野	榛原	富士	那加	山田	碓氷	北勢	秩父	北葛飾	中葛飾

大 阪									
姫路 姫路 兵庫縣	神 戶		宮 津	園 部		大 阪			伏 見
	篠山	明石		福知山	園部	天王寺	中之島	本 田	
播磨	兵庫縣		京都府	大阪府					
丹波	播磨	攝津	丹後	丹波	攝津	河內	攝津	河內	攝津
多可 加西 印南 神東 神西 飾東 飾西	多紀 水上	明石 美嚨 加東 加古	神戶區 八部 菟原 武庫 川邊 有馬	全國五郡	天田 何鹿	船井 南桑田	乙訓 紀伊 久世 相樂 綴喜 宇治ノ内		

所									
京 都	相 川	高 田		長 岡		新 發 田		新 潟	
		系魚川	高田	六日町	柏崎	長岡	村上	新發田	新潟
下京	新瀉縣	新瀉縣		新瀉縣		新瀉縣		新瀉縣	
山城	佐渡	越後		越後		越後		越後	
上京區 愛宕ノ内 葛野ノ内	全國三郡	西頸城	東頸城	南魚沼	古志 北魚沼 三島 刈羽ノ内	岩船	北蒲原	新潟區 西蒲原 中蒲原 南蒲原	

裁										
奈 良 五 條	奈 良	堺	七 尾 輪 島	七 尾	富 山 魚 津	富 山	高 岡	金 澤 小 松	金 澤	大 野
大阪府	大阪府	大阪府	石川縣	石川縣	石川縣	石川縣	石川縣	石川縣	石川縣	
大和	和泉	和泉	能登	能登	越中	越中	越中	加賀	加賀	
字智 吉野 葛上 忍海 高市 内 葛下	添上 添下 山邊 平野 式上 式下 十市	堺區 全國 四郡 大縣 安宿 志紀 内 丹北 丹南 八上 古市 石川 錦部	珠洲 鳳至	加島 羽昨	下新川	上新川 婦負 射水 内 礪波 内 庄川 以東	射水 内 礪波 内 庄川 以西	能美 江沼	金澤區 河北 石川	大野

控									
福 井 福 井	彦 根	大 津	津 山 津 山	岡 山 玉 島	岡 山 高 梁	洲 本 洲 本	豐 岡 豐 岡	豐 岡 豐 岡	豐 岡 豐 岡
福井縣	敦 賀 福 井 縣	小 濱 福 井 縣	大 津 滋 賀 縣	滋 賀 縣	滋 賀 縣	兵 庫 縣	兵 庫 縣	兵 庫 縣	兵 庫 縣
越前	若 狹 前	若 狹 前	近 江	近 江	美 作	備 前	備 前	備 前	備 前
南條 今立 丹生 吉田 阪井 足羽	敦 賀 三 方	神 崎 愛 智 犬 上 阪 田 伊 香 東 淺 井 西	滋 賀 野 洲 甲 賀 栗 太 蒲 生 高 島	遠 敷 大 飯	全 國 十 二 郡	上 房 阿 賀 哲 多 川 上	小 田 後 月 下 道 窪 屋 淺 口	加 湯 字 郡 岡 山 區 全 國 八 郡	全 國 二 郡

名古屋控訴裁判									
宇和島	名古屋		岡崎		安濃津		山田		岐阜
	名古屋	一ノ宮	岡崎	豊橋	安濃津	四日市	上野	山田	
愛媛縣	愛知縣		愛知縣		三重縣		三重縣		
伊豫	尾張		三河		伊勢		伊勢		
東南北字和	名古屋區愛知ノ内東西春日井海東海西		知多愛知ノ内		丹羽葉栗中島		額田碧海幡豆東加茂		
	八名南		設樂室飯海美		河曲鈴鹿庵藝安濃飯高一志飯野		紀伊南北牟婁		
	桑名員部朝明三重		伊賀全國四郡		伊勢多氣度會		伊勢答志英虞		
	美濃厚見羽栗各務中島方縣山縣武儀郡七		飛彈益田ノ内						

審判所									
和歌山和歌山		田邊田邊		德島德島		脇町脇町		高知高知	
和歌山縣		和歌山縣		德島縣		德島縣		高知縣	
紀伊		紀伊		阿波		阿波		土佐	
和歌山區伊都那賀名草海部有田		日高		名東名西勝浦那賀海部板野		美馬三好麻植阿波		安藝香美長岡土佐吾川高岡	
喜多西字和		宇摩新居周布桑村越智		野間久米風早		那珂多度三野豐田鶴足阿野ノ内		幡多	
		字摩新居周布桑村越智		下浮穴和氣伊豫温泉		大内寒川三木山田香川阿野ノ内		小豆	

廣島控										所	
松江	山口				尾道 尾道廣島縣	廣島		高山 高山縣	岐阜		
	萩	赤間關	岩國	山口		三次	廣島		御嵩	大垣	
島根縣	山口縣				備後	備前	安藝	飛騨	美濃		
出雲	長門		周防	長門	備後	備前	安藝	大野	賀茂可兒 土岐 惠那		
	大津 阿武 見島		赤間關區 厚狹 豐浦	熊毛 大島 玖珂	美濃 佐波 吉敷	安藝 甲奴 世羅 深津 品治 沼隈 荻田	高田 三落 奴可 三上 三次 惠蘇	廣島區 沼田 安藝 佐伯 山縣 高宮	海西 石津 多藝 不破 本巢 席田 安八 池田 大野		
	大原 意宇 能義 秋鹿 島根 仁多							大野 吉城 益田ノ内			

長				所判裁訴					
福江	平戶	佐賀		長崎	西鄉	鳥取	米子	濱田	今市
		唐津	佐賀						
長崎縣	長崎縣	長崎縣		長崎縣	島根縣	鳥取縣	鳥取縣	島根縣	
肥前	肥前	肥前		肥前	隱岐	因幡	伯耆	石見	
南松浦	北松浦	東松浦		南高來	全國四郡	全國八郡	全國六郡	全國六郡	神門 出雲 楯縫 飯石
西彼杵ノ内	全二郡	藤津 養父 三根 神崎 佐賀 小城 杵島		長崎區 北高來 東彼杵 西彼杵ノ内					

院										
控 館 函			所 判 裁							
函 館			大 曲	秋 田			盤 井	盛 岡		酒 田
福 山	江 刺	函 館	能 代	本 庄	秋 田	盤 井	宮 古	盛 岡	酒 田	山 形
開 拓 使			秋 田 縣			岩 手 縣		岩 手 縣		山 形 縣
渡 島	後 志	渡 島	全 羽 中	羽 後	羽 後	陸 前	陸 中	陸 中	陸 中	羽 前
松 前	久 遠	檜 山	鹿 角	山 本	川 邊	東 西	東 南	北 中	南 北	東 西
	太 橋	越 前	仙 北	北 秋 田	南 秋 田	盤 井	閉 伊	閉 伊	九 戸	西 閉 伊
	瀬 柵	龜 田	平 鹿	北 秋 田		江 澤	江 東		西 閉 伊	南 北 岩 手
	奥 尻	上 磯	雄 勝						紫 波	稗 貫

宮 城 控 訴										
山 形		米 澤	若 松	平	白 川	福 島		仙 臺		
新 庄	山 形	米 澤	若 松	平	白 川	中 村	福 島	大 河 原	石 巻	白 川
山 形 縣		山 形 縣	福 島 縣	福 島 縣	福 島 縣	福 島 縣		宮 城 縣		
羽 前	羽 前	越 後	若 代	磐 城	磐 城	磐 城	磐 城	陸 前	陸 前	
最 上	南 北	南 西	東 浦 泉	磐 前	岩 瀨	宇 多	田 村	柴 田	桃 生	志 田
	村 山	置 賜	那 麻	磐 城	安 積	行 方	伊 達	伊 具	牡 鹿	加 美
			河 沼	櫛 葉	積 内		伊 達	巨 理	登 米	玉 造
			大 沼	菊 田					本 吉	栗 原
			安 積 内	標 葉						遠 田
				田 村						

訴 裁 判 所			
八 戸	弘 前	壽 都	
八 戸	原 青 森	弘 前	
百 可 森 縣	青 森 縣		
陸 奥	陸 奥	後 志	
三 戸 上 北 ノ 内	北 津 輕	島 牧 壽 都 歌 樂 磯 谷	
	東 津 輕 下 北 上 北 ノ 内		
	西 中 南 津 輕		

明治十四年十二月二十八日第七拾六號布告

本年十月第五十三號布告裁判所名稱區劃表始審ノ行中相川豐岡洲本田
 邊脇町高山西郷平戸福江巖原天草大曲八戸ノ名稱ヲ削除シ其管轄ハ
 相川ヲ新瀉ニ豐岡ヲ姫路ニ洲本ヲ神戸ニ田邊ヲ和歌山ニ脇町ヲ徳島
 ニ高山ヲ岐阜ニ西郷ヲ松江ニ平戸福江巖原ヲ長崎ニ天草ヲ熊本ニ大
 曲ヲ秋田ニ八戸ヲ弘前ニ合併ス右奉 勅旨布告候事

○第三款 重罪裁判所管轄區劃ノ事

明治十四年十二月廿八日第七拾八號布告

重罪裁判所管轄區劃別紙ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施
 行ス

但治罪法第七拾二條ニ從ヒ管内便宜ノ裁判所ニ於テ一ヶ所又ハ數
 ケ所開廳スヘシ

○五 右奉 勅旨布告候事

重罪裁判所管轄

東京重罪裁判所

管轄 東京始審裁判所管轄ノ地方

神奈川重罪裁判所

同 横濱始審裁判所管轄ノ地方

新潟重罪裁判所

同 新潟 高田 長岡 新發田始審裁判所管轄ノ地方

埼玉重罪裁判所

同 浦和 熊谷始審裁判所管轄ノ地方

千葉重罪裁判所

同 千葉 木更津始審裁判所管轄ノ地方

栃木重罪裁判所

同 栃木 宇都宮始審裁判所管轄ノ地方

群馬重罪裁判所

同 前橋始審裁判所管轄ノ地方

茨城重罪裁判所

同 水戸 土浦始審裁判所管轄ノ地方

山梨重罪裁判所

同 甲府始審裁判所管轄ノ地方

静岡重罪裁判所

同 静岡 濱松始審裁判所管轄ノ地方

長野重罪裁判所

同 松本 長野 上田始審裁判所管轄ノ地方

二五

大阪重罪裁判所

管轄 大阪 堺 奈良始審裁判所管轄ノ地方

京都重罪裁判所

同 京都 園部 宮津始審裁判所管轄ノ地方

兵庫重罪裁判所

同 神戸 姫路始審裁判所管轄ノ地方

和歌山重罪裁判所

同 和歌山始審裁判所管轄ノ地方

滋賀重罪裁判所

同 大津 彦根始審裁判所管轄ノ地方

徳島重罪裁判所

同 徳島始審裁判所管轄ノ地方

岡山重罪裁判所

同 岡山 津山始審裁判所管轄ノ地方

福井重罪裁判所

同 福井始審裁判所管轄ノ地方

石川重罪裁判所

同 金澤 富山 七尾始審裁判所管轄ノ地方

高知重罪裁判所

同 高知 中村始審裁判所管轄ノ地方

愛媛重罪裁判所

同 松山 高松 宇和島始審裁判所管轄ノ地方

長崎重罪裁判所

同 長崎 佐賀始審裁判所管轄ノ地方

三五

四五

福岡重罪裁判所

管轄 福岡始審裁判所管轄ノ地方

熊本重罪裁判所

同 熊本始審裁判所管轄ノ地方

大分重罪裁判所

同 大分 中津始審裁判所管轄ノ地方

鹿児島重罪裁判所

同 鹿児島 宮崎始審裁判所管轄ノ地方

沖繩縣管轄ノ地方

函館重罪裁判所

同 函館始審裁判所管轄ノ地方

開拓使 札幌 根室 本支廳管轄ノ地方

青森重罪裁判所

同 弘前始審裁判所管轄ノ地方

愛知重罪裁判所

同 名古屋 岡崎始審裁判所管轄ノ地方

岐阜重罪裁判所

同 岐阜始審裁判所管轄ノ地方

三重重罪裁判所

同 安濃津 山田始審裁判所管轄ノ地方

宮城重罪裁判所

同 仙臺始審裁判所管轄ノ地方

福島重罪裁判所

同 福島 若松 平 白川始審裁判所管轄ノ地方

五五

六五 磐手重罪裁判所

管轄 盛岡 磐井始審裁判所管轄ノ地方

山刑重罪裁判所

同 山形 米澤 酒田始審裁判所管轄ノ地方

秋田重罪裁判所

同 秋田始審裁判所管轄ノ地方

廣島重罪裁判所

同 廣島 尾道始審裁判所管轄ノ地方

山口重罪裁判所

同 山口始審裁判所管轄ノ地方

島根重罪裁判所

同 松江 濱田始審裁判所管轄ノ地方

鳥取重罪裁判所

同 鳥取 米子始審裁判所管轄ノ地方

○第四款 小笠原島裁判事務ノ事

明治十四年十月七日第五十六號布告

小笠原嶋裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所即チ違警
判所即チ輕罪ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民事控訴及重罪裁判ハ東京
控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告
候事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○第五款 伊豆七島裁判事務ノ事

明治十四年十月七日第五十七號布告

七五 伊豆七島裁判事務當分該島吏ニ民事ハ百圓以下及勸解并ニ刑事ハ違

八五

懲罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○第六款 北海道及ヒ沖繩縣裁判事務ノ事

明治十四年十二月二十八日第七十九號布告

各裁判所ノ位置及管轄區畫ノ儀本年十月第五十三號ヲ以テ布告候處北

海道函館始審裁判所并ニ沖繩縣ノ儀ハ當分從前ノ通其所轄ノ官廳ニ

於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計ヲ爲スヘシ

但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管

轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○第七款 裁判所名稱改正ノ事

明治十四年十二月二十八日第二號布達

本年十月第五十三號布告ヲ以テ各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫改正候

ニ付テハ從前布告布達中上等裁判所トアルハ控訴裁判所地方裁判所

トアルハ始審裁判所區裁判所トアルハ治安裁判所ト改マリ候儀ト心

得ヘシ右布達候事

○第八款 被告人逮捕ノ地裁判管轄ノ事

明治十四年九月二十日第四十六號布告ノ内

治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内

犯罪ノ地分明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其

被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄スヘシ

○第九款 商船内犯罪取扱規則ノ事

明治十四年十二月十五日第六十五號布告

九五

○六 商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス右奉 勅旨布告候事
別紙 商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其中立ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

○第十款 違警罪審判便宜取計ノ事

明治十四年九月二十日第四十四號布告

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ實際已ムコト得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ラヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サス此旨布告候事

○第十一款 府縣警察署違警罪裁判ノ事

明治十四年九月二十日第四十八號布告

刑法治罪法中違警罪裁判ノ儀ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ外府縣警察署又ハ警察分署コトヲ裁判可致候條此旨布告候事

明治十四年十二月二十八日第八十號布告

本年九月第四十八號布告左ノ通改正ス

一六 違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治

二六

安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ
裁判セシムヘシ右奉 勅旨布告候事

○第十二款 治安裁判所ニ輕罪裁判所ヲ開ク事

明治十四年十月六日第五十四號布告

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察官ニ於
テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限リ始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外
治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヲ得ヘシ此旨布
告候事

但本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ
付テハ上訴ヲ許サス

明治十四年十二月二十八日第七十七號布告

本年十月第五十四號ヲ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサルモノニ限リ治安

裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘキ旨布告候處當分ノ内相川豐
岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江嚴原天草大島大曲八戸ノ各治安裁
判所ニ於テハ輕罪裁判所ヲ開キ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得ヘシ
但本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續等ハ本年第五十四號布告但
書ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月九日司法省丁第廿七號達 大審院 裁判所

本年第五十四號公布ニ依リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クハ
其管轄輕罪裁判所ノ名稱ヲ用ヒ其印ヲ捺シ某治安裁判所ニ於テスル
コトヲ附記スヘシ左ニ離形相添ヘ此旨相達候事

書式 於八王子治安裁判所

印章

橫濱輕罪

離形

橫濱輕罪裁判所

離形

裁判所

三六

四六

○第十三款 同上檢事職務ノ事

明治十四年十二月二十八日第七十一號布告

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其所在ノ地警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム右奉 勅旨布告候事

○第十四款 陪席判事及ヒ補充判事ノ事

明治十四年九月二十日第四十六號布告ノ内

治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候ヘトモ當分ノ内二名ト相定候事

明治十四年十月六日第五十五號布告

治罪法第七十三條末文陪席判事第七十九條第三項補充判事ノ儀當分其裁判所長又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任シ候條此旨布告候事

○第十五款 控訴上告及ヒ證人呼出費用ノ事

明治十四年九月二十日第四拾五號布告

公訴私訴ニ係ル控訴上告及ヒ證人呼出費用等ノ儀當分左ノ通相定候條此旨布告候事

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ控訴又ハ上告ヲ爲ス者アル時ハ原裁判所ニ於テ其訴訟費用ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムヘシ若シ豫納スルコト能ハサル時ハ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ許サス豫審又ハ公判ニ付證人ヲ呼出サント請フ者アル時ハ裁判所ニ於テ其旅費日當等ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムヘシ

若シ被告人旅費日當ヲ豫納スルノ資力ナキ時ハ治罪法第七十條ノ制限ニ從ヒ裁判所ニ於テ其費用ヲ立替置クヘシ

明治十四年十二月二十八日第七拾四號布告

五六 治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セズ右奉 勅旨布

六六 告候事

○第十六款 司法警察官ノ事

明治十四年十月十日司法省甲第五號布達

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

明治十四年十月十日司法省丙第十三號達 警視廳府縣東京府ヲ附ク

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシム不苦候條此旨相達候事

但代理ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ハ豫シメ其地方輕罪并違警罪裁判所ニ通牒致シ置候儀ト心得ヘシ

○第十七款 無能力者并ニ法律上代人及ヒ民事擔當人ノ事

明治十四年十二月二十八日第七拾三號布告

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通

無能力者

- 一 未丁年者
 - 二 妻タル者
 - 三 白癡瘋癲人
 - 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人

- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人
- 二 夫タル者
- 三 白痴瘋癲人ノ保管者
- 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人

七六

民事擔當人

- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者
- 二 夫タル者
- 三 白痴瘋癲人ノ保管者
- 四 雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

右奉 勅旨布告候事

○第十八款 准現行犯ノ事

明治十四年九月二十日第四拾六號布告ノ内

治罪法第百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料
ヘキ者アルキハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルコトヲ得

○第十九款 勾引シタル被告人留置ノ事

明治十四年十月八日第五拾九號布告

治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ
其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限リ裁判所又ハ最寄警察署留置
場ニ入置クヘシ此旨布告候事

○第二十款 諸令狀及ヒ宣誓書式ノ事

明治十四年十二月十二日司法省丁第廿八號達 大審院

治罪法中ニ掲ケタル送達書呼出狀召喚狀勾引狀留置狀收監狀及宣誓
書式別紙ノ通相定候條右ニ照準ス可シ此旨相達候事 別紙書式ハ六

明治十四年十二月十九日司法省丙第十七號達 警視廳府縣東

治罪法令狀樣式別紙丁第廿八號ノ通大審院裁判所ニ相達候條其旨可
相心得且司法警察官ニ於テ令狀ヲ發スル時ハ右ニ照準シテ取討フ可
シ此旨相達候事

用紙美濃ノ類

輪郭寸法凡 堅七寸五分 横五寸四分

送達書

一送達スヘキ書名	登冊
一同	登通
右使丁ヲ以テ何府縣下何町又ハ何國何郡何村何番地何某ヘ送達セシムル者也	
明治年月	何裁判所
書記	氏名印
受取人ノ署名捺印若シ能ハサルハ其事ハ	送達シタル
由	送達シタル
月日時	送達シタル
場所	送達シタル
親屬雇人若シハ戸長ヘ書類ヲ渡シタル時ハ其事由	
右致送達候也	
使丁	氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

送達書

一送達スヘキ書名	登冊
一同	登通
右使丁ヲ以テ何府縣下何町又ハ何國何郡何村何番地何某ヘ送達セシムル者也	
明治年月	何裁判所
書記	氏名印
受取人ノ署名捺印若シ能ハサルハ其事ハ	送達シタル
由	送達シタル
月日時	送達シタル
場所	送達シタル
親屬雇人若シハ戸長ヘ書類ヲ渡シタル時ハ其事由	
右致送達候也	
使丁	氏名印

呼出狀

此呼出狀ハ出頭ノ節
書記局ニ差出ス可シ

住所身分職業
氏名

右云々ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀
有之來ル何月日時何所ニ出頭可致者也
但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ
言渡シ且勾引狀ヲ發スルコトアル可シ

明治 年月 日
何裁判所

豫審判事 氏名印
書記 氏名印

受取人ノ署名捺印若シ能ハサルハ其事由
送達シタル月日時
送達シタル場所
親屬雇人若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事

右之通取扱候也

明治 年月 日

使丁 氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

呼出狀

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ
此呼出狀ハ出頭ノ節
書記局ニ差出ス可シ

住所身分職業
氏名

右云々ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀
有之來ル何月日時何所ニ出頭可致者也
但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ
言渡シ且勾引狀ヲ發スルコトアル可シ

明治 年月 日
何裁判所

豫審判事 氏名印
書記 氏名印

受取人ノ署名捺印若シ能ハサルハ其事由
送達シタル月日時
送達シタル場所
親屬雇人若クハ戸長ニ渡シタル時ハ其事

右之通取扱候也

明治 年月 日

使丁 氏名印

召喚狀

住所身分職業 氏名		右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之何月日 時當裁判所ニ出頭可致者也	
明治年月日	何裁判所 日時	豫審判事 氏名印	何裁判所 氏名印
受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サルハ其事	送達シタル 月日時	送達シタル 場所	親屬雇人若シ ハ戸長へ書類 ヲ渡シタル時 ハ其事
右之通取扱候也	明治年月日	使丁	氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

召喚狀

住所身分職業 氏名		右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之何月日 時當裁判所ニ出頭可致者也	
明治年月日	何裁判所 日時	豫審判事 氏名印	何裁判所 氏名印
受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サルハ其事	送達シタル 月日時	送達シタル 場所	親屬雇人若シ ハ戸長へ書類 ヲ渡シタル時 ハ其事
右之通取扱候也	明治年月日	使丁	氏名印

官官

勾引状

住所身分職業

氏名

若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等

右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁判
所へ勾引ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス
可シ

明治 年月
何裁判
所之日時
之印

像審判事

氏名 印

書記

氏名 印



拘引シタル被
告人ノ署名捺
印若シ能ハサ
ルハ其事由

執行シタル
月日時

執行シタル
場所

執行ノ手續
家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其

由

勾引スルノ能
ハサル時ハ其
事由

右之通取扱候也
明治 年月 日

巡査又ハ憲兵 氏名 印
是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

一葉ヲ書記局へ還納ス

檢事印

勾引状

住所身分職業

氏名

若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等

右云々ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁判
所へ勾引ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス
可シ

明治 年月
何裁判
所之日時
之印

像審判事

氏名 印

書記

氏名 印

拘引シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハサ ルハ其事由	執行シタル 月日時	執行シタル 場所	執行ノ手續 家宅搜索ヲ爲 シタル時ハ其	由	勾引スルノ能 ハサル時ハ其 事由	右之通取扱候也 明治 年月 日 巡査又ハ憲兵 氏名 印
-------------------------------------	--------------	-------------	---------------------------	---	------------------------	-----------------------------------

檢事官印

勾留狀

住所身分職業

氏名

若シ氏名分明ナラザルキハ容貌體格等

右云々ノ事件ニ付治罪法第二百二十六條ノ規則ニ從ヒ何所監倉ヘ勾留ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年月

何裁判所之日時

何裁判所

豫審判事

氏名 印

書記

氏名 印

勾留シタル被

告人ノ署名捺

印若シ能ハサ

ルキハ其事由

執行シタル

月日時

執行シタル

場所

執行ノ手續

家宅搜索ヲ爲

シタル時ハ其

由

右之通取扱候也

明治 年月

日

巡查又ハ憲兵 氏名 印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ヘ渡シ

一葉ヲ書記局ヘ還納スヘシ

檢事官印

勾留狀

住所身分職業

氏名

若シ氏名分明ナラザルキハ容貌體格等

右云々ノ事件ニ付治罪法第二百二十六條ノ規則ニ從ヒ何所監倉ヘ勾留ス可キ者也

但本人潜匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年月

何裁判所之日時

何裁判所

豫審判事

氏名 印

書記

氏名 印

勾留シタル被

告人ノ署名捺

印若シ能ハサ

ルキハ其事由

執行シタル

月日時

執行シタル

場所

執行ノ手續

家宅搜索ヲ爲

シタル時ハ其

由

右之通取扱候也

明治 年月

日

巡查又ハ憲兵 氏名 印

檢事官印

收監狀

住所身分職業
〇未遂犯ニ付戒等〇未丁年ニ付戒等
〇自首ニ付戒等〇再犯ニ付加立 氏名

右云々ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル處本
罪刑法第何條ニ該ル可キ者ト思料ス依
テ檢事ノ意見ヲ聽キ何所 監倉ニ收監ス
可キ者也
但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス
可シ

明治 年 月
何 裁判
所之日時

豫審判事 氏名印
書記 氏名印

収監シタル被
告人ノ署名捺
印若シ能ハサ
ルキハ其事由

執行シタル
月日時

執行シタル
場所

執行ノ手續
家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其
由

収監スルコト能
ハサル時ハ其
事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日

巡査又ハ憲兵 氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

檢事官印

收監狀

住所身分職業
〇未遂犯ニ付戒等〇未丁年ニ付戒等
〇自首ニ付戒等〇再犯ニ付加立 氏名

右云々ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル處本
罪刑法第何條ニ該ル可キ者ト思料ス依
テ檢事ノ意見ヲ聽キ何所 監倉ニ收監ス
可キ者也
但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス
可シ

明治 年 月
何 裁判
所之日時

豫審判事 氏名印
書記 氏名印

収監シタル被
告人ノ署名捺
印若シ能ハサ
ルキハ其事由

執行シタル
月日時

執行シタル
場所

執行ノ手續
家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其
由

収監スルコト能
ハサル時ハ其
事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日

巡査又ハ憲兵 氏名印

宣誓書

包々ノ事件ニ付愛憎畏懼ノ心ナ
 シ總テ正實ニ陳述定ス可キヲ誓
 フ

明治 年 月 日

通事 鑑定人

氏 名 印

○第二十一款 書類送達制限ノ事

明治十四年九月廿日第四拾六號布告ノ内

書類送達ニ付治罪法第廿四條ノ制限有之候ヘトモ當分ノ内不及其儀候事

○第二十二款 使丁規則ノ事

明治十四年十二月五日司法省丁第廿六號達 大審院 裁判所

使丁規則別冊ノ通相定候條明治十五年一月一日ヨリ施行致スヘク此旨相達候事

別紙 使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他書類ヲ送達

セシムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス

使丁取締ハ一人トス但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコトアル可シ

第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ヒ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受ルモノトス

使丁ノ人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受ク可シ

第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス

第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フ可シ

第五條 使丁ハ送達ヲ爲ス時裁判所ノ鑑札ヲ帶行ス可シ

第六條 送達ヲ爲スニハ其法律規則ニ從フ可シ

第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付代人トナリテ訟庭ニ出ルヲ許サス

第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタル時ハ使丁取締其償ヲ擔當スヘシ

但使丁ノ過失懈怠ニ由ル時ハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求

ムルヲ得

第九條 送達賃錢ハ書類ノ大小ニ拘ハラヌ一通ニ付一里ヲ錢以下トス

賃錢ノ定限ハ使丁取締之ヲ申立書記局之ヲ決シ且送達書ニ其賃錢高ヲ附記ス可シ

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ公告ス可シ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ルモノヨリ之ヲ拂置ク可シ

但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置ク可シ

一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス証人鑑定人通事ノ呼出狀

二 檢察官ノ控訴ノ申立ヲ被告人ヘノ通知及ヒ呼出狀

三 檢察官ヨリ被告人へ送達スル上告申立書及ヒ趣意書

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之ヲ拂フ可シ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ハ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フ可キ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出ス可シ

第十五條 使丁取締及ヒ使丁此規則ニ違背シタル時裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲スヘシ

- 一 二十圓以下ノ違約金ヲ納メシムルコト
- 二 解職セシムル事

三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムルコト

第十六條 使丁取締タルニハ其裁判所々在地ニ家屋ヲ有シ滿二十一

歳以上ノ者ニシテ書記局ノ試験ヲ經ルコトヲ要ス

使丁取締タルニハ身元保証トシテ金五十圓以上ノ價格アル公債証書地券又ハ銀行其他官許アル株券證書ヲ書記局ニ納ム可シ

但此保証金ハ解職ノ時下戻ス可シ

第十七條 試験ハ書記二名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

但書記不足ナルトキハ雇ヲ以テ之ニ充ツヘシ

試験ノ科目ハ左ノ如シ

- 一 使丁規則
- 二 請負郡村ノ地名又ハ里數
- 三 普通書簡ノ書讀

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限ノ處分ヲ受ケ未タ

辨償ヲ終ラサル者ハ使丁取締又ハ使丁タルヲ許サス
○第二十三款 家宅搜索ノ事

明治十四年九月二十日第四十六號布告ノ内

治罪法第三百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄
席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖其營業ヲ爲
ス時間又旅籠屋貸座敷ハ日出前日没後ニ拘ハラス搜索シ苦シカラス

○第二十四款 同上司法警察官へ囑託ノ事

明治十四年九月二十日第四十六號布告ノ内

治罪法第六十八條第七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ許
シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルヲ得

○第二十五款 司法官吏兵力ヲ要求スル手續ノ事

明治十四年九月二十日太政官第八十二號達 官省院使
廳府縣

司法官吏ヨリ巡查及ヒ兵員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ
此旨相達候事

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及ヒ物件差
押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會
シテ巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スルヲ得

但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分
營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲ得

明治十四年十二月五日司法省丙第十五號達 警視廳府縣東
京府ヲ除ク

治罪法實施ノ上ハ豫審判事檢證及ヒ物件差押ノ事件ニ付急速ヲ要ス
ル場合直ニ巡查ヲ同行シ又ハ所在ノ巡查ヲ使用スル儀モ可有之候條
豫テ可達置此旨相達候事

○九

○第二十六款 司法警察官令狀ヲ發ス事

明治十四年九月二十日第四十六號布告ノ内

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得サ
ル旨記載有之候ヘトモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限リ令狀ヲ發シ若シ
カラス

○第二十七款 責付手續ノ事

明治十四年九月二十日第四十七號布告

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルコトハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨布
告候事

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ
應シ出廷セシムヘキノ證書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ

爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事
ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ

○第二十八款 大審院諸裁判所々屬代理人規則ノ事

明治十四年十二月二日司法省甲第八號布達

大審院諸裁判所所屬代理人規則別紙之通相定候條此旨布達候事
別所屬代理人規則

第一條 治罪法中所屬代理人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所所在ノ
地ニ住居スル免許代理人ヲ云

第三條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代理人辨護人ハ正當ノ事由
ヲ證明スルコトヲサレハ之ヲ辭スルヲ得ス

一九 第三條 代言又ハ辨護受任中代言免許満期ニ至リ引續營業セス又ハ

廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代言辨護ヲ擔當ス可シ

第四條 代言又ハ辨護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クコトヲ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代言人辨護人ヲ選任シタル場合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當ス可シ
總テ謝金ニ付テハ出訴スルコトヲ許サス

明治十五年一月九日第一號布告

治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辨護人ナクシテ辨論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ效ナカルヘシト有之候得共其裁判所所屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ内辨護人ヲ用ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無効ノ限ニ在ラス右奉 勅旨布告候事

○第二十九款 公庭取締ノ事

明治十四年十月四日太政官第八拾六號達 警視廳府縣東京府ヲ除ク

治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公庭取締ノ使用ニ供スルタメ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡查爲相詰又拘留被告人審問中ハ其護送ノ巡查或ハ押丁ヲシテ守卒トシテ公庭ニ入り看護セシムヘシ此旨相達候事

○第三十款 裁判書謄本ヲ求ムル費用ノ事

明治十四年十二月二日司法省甲第七號布達

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達候事

明治十四年十二月十五日司法省丁第三十一號達 裁判所

三九 本年本甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ拔書ヲ求ムル者代價ノ儀無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限り無代價ニテ下渡スモ不苦儀ト

四九

可心得此旨相達候事

○第三十一款 犯人証人押印ノ事

明治十四年十二月五日司法省丙第十六號達 大審院裁判所警視廳
府縣東京府ヲ除ク
治罪法中犯人証人等押印ノ條々實印無之者ニ限リ從來ノ慣例ニ依リ
捺印爲致候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○第三章 雜令

○第一款 各省事務章程通則之事

明治十四年十一月十日太政官第九十四號達 官省院使
廳府縣
各省従前ノ事務章程ヲ廢シ今般諸省事務章程通則別紙ノ通被定候條
此旨相達候事

別紙 諸省事務章程通則

第一條 各省卿ハ各省ノ行政事務ヲ總理ス

第二條 各省卿ハ該省所部ノ官屬ヲ統率シ及ヒ監督シ奏任官ノ進退

ヲ具狀シ其八等官以下ハ之ヲ判任ス

第三條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付法律規則ヲ制定シ又ハ之ヲ廢止改

正スルヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘテ上奏シ裁ヲ請フヘシ

五九

第四條 凡法律規則布達ノ其主管ノ事務ニ屬スルモノハ各省卿之ニ

副署シ其執行ノ責ニ任スヘシ若シ兩省以上ニ關涉スルモノハ關涉ノ省卿均シク之ニ連署シ其責ニ任スヘシ

第五條 各省卿ハ所部ノ官屬ニ指令又ハ訓條ヲ下付スルコトヲ得

第六條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付地方官ヲ監督スヘシ若シ地方官ノ處分法律規則ヲ犯シ若クハ權限ヲ侵スモノアレハ之ヲ取消スコトヲ得

第七條 各省卿ハ主管ノ事務ニ付毎年一月前年ノ功程ヲ具ヘ報告書ヲ奏上ス

第八條 府縣并所部官屬ノ報告各省卿處分ニ屬スルモノ其事体重大ナルハ仍ホ處分シテ後ニ奏上スヘシ

第九條 各省ノ事務臨時ニ定額豫算外ノ費用ヲ要スルトキハ上奏シテ裁ヲ請フヘシ

第十條 各省卿事故アルトキハ臨時命ヲ受ケテ他ノ省卿其代理ニ任スヘシ

第十一條 各省輔官ハ卿ノ職ヲ輔ケ卿ノ命ヲ以テ各省内部ノ事務ヲ代理スルコトヲ得

明治十四年十二月三日太政官第百一號達 官省院使廳 府縣

本年十一月九拾四號ヲ以テ諸省事務章程通則相達候ニ付テハ法律規則ハ布告ヲ以テ發行シ從前諸省限リ布達セル條規ノ類ハ自今總テ太政官ヨリ布達ヲ以テ發行候條此旨相達候事

但太政官及ヒ諸省ヨリ一時公布スルニ止ルモノハ告示ヲ以テ發行シ諸省卿ヨリ府縣長官ヘ達シ儀ハ從前ノ通

○第二款 新法實施前ノ刑事審判ノ事

明治十四年十二月廿八日第八拾二號布告

大審院各裁判所ニ於テ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ着手セシ刑事ハ十五年一月一日以後ト雖モ治罪法ニ拘ハラス仍ホ従前ノ規則ニ從ヒ處分スヘシ右奉勅旨布告候事

○第三款

治安始審兩裁判所權限ノ事

明治十四年十二月廿八日第八拾三號布告

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス右奉勅旨布告候事

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ

商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付始審

ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判

スルヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所權限外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル

控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第十九號布告控訴手續ニ照準スヘシ

明治十五年一月廿三日司法省丁第十號達 控訴裁判所 始審裁判所

客年第八十三號布告ヲ以テ治安裁判所及始審裁判所ノ權限相定メラ

レ候ニ付テハ治安裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ハ始審裁判所ニ於テ受

理スヘキハ勿論ニ候處右布告ヲ知得サル前ニ於テ舊區裁判所若クハ

治安裁判所ノ裁判ニシテ始審裁判所ニ控訴スヘキモノニ對シ控訴裁

判所ニ控訴スル者ハ控訴裁判所ニ於テ之ヲ受理シ管轄始審裁判所ニ

引繼シキ備ト必得ヘシ此旨爲念相達候事

○第四款 人民ヨリ官府ニ對スル詞訟管轄ノ事

明治十五年一月十二日司法省丁第三號達 控訴裁判所
始審裁判所

人民ヨリ官府ニ對スル詞訟ノ受否又ハ判決見込ニ付現今伺出ニ係ル
件中客年第五十三號布告ニ依リ他ノ管轄裁判所ニ屬スヘキ分ハ當省
ヨリ直チニ其管轄裁判所ニ移シ處分セシメ候條此旨相達候事

○第五款 監獄則ノ事

明治十四年九月十九日太政官第八十一號達 官省院使
廳府縣

明治五年達監獄則及本年三月第十三號達在監人給與規則同月七第六十四
號達在監人雇工錢規則ヲ合セテ別冊ノ通監獄則相定候條此旨相達候
事

但明治十五年一月一日以後施行ノ刑法治罪法ニ關涉スル條件ハ同
日ヨリ施行スヘシ

監獄則目錄

第一編

第一章 汎則

第二章 監署ノ規程

第三章 監獄ノ構造

第二編

第一章 役法 附時限

第二章 工錢

第三章 徒刑流刑及ハ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第三編

第一章 給與

第二章 疾病 附死亡

第三章 書信

第四章 接見

第五章 差入品

第四編

第一章 教誨

第二章 賞譽

第三章 懲罰

監獄則

第一編

第一章 汎則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者ヲ一時留置スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得

二 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス

三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス

五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

六 集治監 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第二條 監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

第三條 集治監ハ内務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ警視總監又ハ府知事東京府ヲ除ク縣令之ヲ管理ス

第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス

第五條 内務卿ハ毎年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スヘシ府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルコトヲ得

第六條 在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第二章 監署ノ規程

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ犯則若シ決裁スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

第九條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外ヲ視察シ或ハ物件ヲ査閲シ其他囚徒ノ傲惰ヲ生シ脱越等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又ハ處刑宣告書等ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致シ來タル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得

六〇一

未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス

己決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條 入監ノ婦女乳子三歲未滿ヲ攜帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ樣本ニ照シ其要項ヲ詳録シ一小房内ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舎ニ入ルトキモ亦同シ

第十三條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第十四條 總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點

檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒收ス
若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ス

第十五條 在監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノ、ミヲ許スヘシ

第十六條 己決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス

- 一 十六歲未滿ノ者ト滿十六歲以上ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齢ニシテ初犯ノ者

十七條 初犯ノ者ト再犯以上ノ者
第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハ

七〇一

ス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ但着衣ノ外襟ニ白布ヲ縫着シ其番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆身シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得カラシム

第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ

矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齢ハ滿八歲以上滿二十歲以下ヲ限リトス

第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘡痍者

二 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入レタル者

第二十條 前條第二欸ニ記載シタル懲治人ハ戶長ノ證票ヲ具スルニ

非レハ入場ヲ許サス但シ在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ルヲ得ス

入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舎ニ帶往セント請フトキハ其請狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

一 十六歲未滿ノ者ト滿十六歲以上ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再ヒ懲治場ニ入リ者ト同上ノ年齢ニシテ入場スル者

第二十二條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ別

ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條 典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録カシメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ

第二十四條 賞表ヲ與ヘタルトキハ賞譽簿ニ其氏及ヒ賞詞ヲ記載シ視奪シタルトキハ之ヲ刪除スヘシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條 特赦アリタルトキハ速ニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ

第二十六條 特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後

ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示スヘシ

第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ其證票ヲ與ヘ警察遞傳ヲ以テ其居住セントスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ録シテ共ニ

其地ノ警察官 治罪法第六十條第二ニ送致スヘシ

第二十八條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ

於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚スルヲ得

第二十九條 在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス

傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス

第三十條 刑期滿限ノ後賴ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ

別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得

第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過

一 一
ヘカラス

二 第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルチ得ス其執行中ハ看守
ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ
其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時ヲ過サレハ埋葬若クハ下付
スルコトヲ得ス

第三十三條 刑死者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨ
リ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領
置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタ
ル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス
親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販
賣シテ代價ヲ遞付スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辯トス
若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス

第三十四條 在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條アル時領置
ノ例ニ依テ處分スヘシ但沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後
ニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分スヘシ
第三十五條 監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アルトキハ司獄官吏
其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ
水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スル違ナキトキハ
要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第三十六條 留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ集治監
ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス

三 一一
留置場監倉懲治場拘留場懲役場一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ

四一一 之ヲ區畫スヘシ

第三十七條 未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ
甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交
遞スルノ便ヲ得サラシムヘシ各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙
適用スルヲ要ス

第三十八條 密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘ
シ

闔室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサル
ヲ要ス

密室闔室ハ一室一人ヲ限トス

第三十九條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ
之ニ縱横ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距テ柵欄ヲ設ケ在監人ハ

格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接
見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障礙スルノ虞ナカラシムヘシ

第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ牆壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第二編

第一章 役法 附時限

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌シ每囚一
日ノ科程ヲ定メテ服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十
歳以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若クハ身軀ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサ
ル者ハ體力ニ應シ作業ノ科程ヲ寬恕ス

五一一 若シ己ムヲ得ス外役ニ服セシムルトキハ鐵鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ
笠ヲ用テ晴雨ヲ其面ヲ掩ハシム但外行ノ囚徒ハ一組十人以上十五人

六一一

以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム
外役ノ因徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサラジム
ルヲ要ス

第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外
ニ整列セシメ看守長及ヒ看守點檢ヲナスヘシ歸監セシムル時モ亦
同シ

第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ喪ニ遭フ者モ亦
一日免役ス

一月一日

元始祭

一月二日

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

第四十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業手等ノ囚ヲ
シテ之ヲ導カシム其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ル
ヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ
生業ヲ計リ攝生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムル
ヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル
未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ

第四十七條 懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過
サル時間休憩時除農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

七一

○時限

第四十八條 未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ毎時日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム又毎時一時間以内監房外ニ於テ運動ヲナス

第四十九條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ午飯セシム其起床ヨリ約テ一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前一時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得
起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ析ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第五十條 科程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラズ罷役セシム
午飯ニ就カムルノ際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ若シ

偷懶ニシテ怠役スル者ハ飯後ノ休憩ヲ許サズ

第二章 工錢

第五十一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經ノハ始テ各自ノ工錢ヲ科定メ之ヲ十分シ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決監ニ在ル者並ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ當日ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢モ又同シ

第五十二條 第十九條第二款ニ記載シタル懲治人ニシテ其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルコト能ハサル者及ヒ第三十條ニ記載シタル者ハ工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ

餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條 各種ノ工錢ハ其他普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ニ技能ニ應シ一日若干錢ト定ムヘシ

第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ第六十九條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得

第五十六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ第三十三條ノ例ニ照ラシテ處分スヘシ

第五十七條 在監人若シ逃走シタルキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收ス未決者及懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ之ヲ沒收ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒押送

第五十八條 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ其宣告書ノ謄書ヲ具シテ内務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ集治監ニ押送スヘシ

北海道集治監ニ於テ管束スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押送スヘキモトノス

第五十九條 北海道ニ在ル集治監ハ每歲三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツヘシ遊船中ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ナシ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第六十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其地ニ居住スヘキ

家ナキトキハ屋舎ヲ貸與スヘシ

屋舎ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創置スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス
第六十二條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其
他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取糺
シ之ヲ許否スヘシ

前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戸長
ニ通告スヘシ

其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄
之ヲ許否スヘシ

第三編

第一章 給與

第六十三條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥
具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルヲ能
ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第六十五條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第六十六條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣
就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

獄衣ノ襟襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番號ヲ墨書スヘシ

第六十七條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

一 單衣

一 袴

一 綿入衣

四二一

- 一 襦袢
- 就役服
- 一 單短衣
- 一 袷短衣
- 一 綿入短衣
- 一 襦袢
- 一 股引
- 雜具
- 一 蒲團
- 一 蚊櫛
- 一 莞筵
- 一 枕

- 一 帶 長三尺
- 一 揮 長三尺
- 一 手巾
- 一 蓑
- 一 笠

以上ノ貨與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條 在監人一人一日ノ食糧

- 一 下白米十分ノ四 七合 強キ力業ニ服スル者
- 一 挽割麥十分ノ六 五合 輕キ力業ニ服スル者
- 一 同 四合 工役ニ服セサル者及ヒ
- 一 同 三合 滿十歳以上ノ未決者
- 一 同 十歳未滿ノ幼者

五二一

六三一

一菜

金壹錢五厘以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得

第六十九條

工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ工錢ヲ得ル者及ヒ其幾

倍ヲ得ル者等ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之

ヲ給スルコトヲ得但一日金三錢ヲ過ルコトヲ得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購

ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得ス

第七十條

在監人日用ノ雜費 澣濯補綴又ハ炊用ノ薪炭ハ一人一日金

壹錢二厘以下トス

第七十一條

監房常置ノ器具

一貯水器并ニ飲器

木製

一唾壺

同

一便器

木製大小二種但監房ニ廁圍ノ接

一小箒

續スルモノニハ此器ヲ用ヒス

一洗手盆

木製

第七十二條

浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十

月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條

己決囚及ヒ懲治人ノ髮ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚アル者ハ

常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條

衣類雜具其他ノ物品ハ種實ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之

ヲ澣ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ

晒洗スヘカラス

七二一

第二章 疾病 附死亡

八二一

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取レ湯婆等ヲ用ルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第七十七條

傳染病侵襲ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ慎重ニスヘシ

若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告スヘシ

○死亡

第七十八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師并蒞テ之ヲ驗屍スヘシ

未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故醫第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以内ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ許シ其者ヲシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘシ
遺骸ヲ請フ親屬故醫ナキトキハ棺ニ入テ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約子面三寸長三尺五寸トス

第三章 書信

第八十條 已決囚其親屬故舊ニ書信ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナク且必要ト認タルトキハ此限ニ在ラス

九二一

第八十一條 未決者ニ係ル書信ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス

第八十二條 懲治人及ヒ幼年ノ己決囚其親屬故舊ニ贈ル書信ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス

第八十三條 在監人ノ發スル書信ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス

第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル書信ハ典獄之ヲ檢閱シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ選善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限り之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモノト認ルトキハ之ヲ付與セズ

第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ横讀シ嫌疑ノ文意アリヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ヨリ發スル書信ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム

親屬故舊若クハ辨護人ノ信書ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシムヘシ
第四章 接見

第八十七條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ己ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フヘキコトナキトキハ之ヲ許シ看守長看守並蒞テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス

面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フトキハ前條第一

項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會時間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具

又飲食物 炊烹ヲ要セザルモノニシテ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス

但酒又ハ煙草其他攝生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス

第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢

衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章 教誨

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ

道ヲ講セシム

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ開クモ
ノトス

第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖書等ノ科

目中ニ就キ之ヲ教フヘキモノトス

學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル

爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等

ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閱ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトア

ルヘシ

第九十五條 各監房内ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラ

シムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ

於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ

揭示

- 一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正
未決監ニハ
 フズヘシ 此款ヲ除ク
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁
 圍廁等ヲ掃除スヘシ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ニ唾キ貯水ヲ濫用スルヲ禁
 ス
- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ全往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或
 ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起歩スルヲ禁
 ス但晝間ト雖モ放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス

- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似
 ノ惡戯ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ
 所爲アルヲ禁ス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工
 場ニ至ルヲ禁ス 未決監ニハ
 此款ヲ除ク
- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘ
 シ
- 一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞
 フヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ
- 一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所
 ノ響器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ

一病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致スヘキハ勿論其看病
 人タラシムル者ハ功賞ニ之ヲ看病スヘシ
 一水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監
 獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ
 右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ
 犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノ
 ナリ

年月日

某監獄署

第二章 譽賞

第九十六條 已決囚獄則チ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ
 確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左

袖ノ肩臂間ニ方二寸曲尺ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ

第九十八條 賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲ス
 チ得

第九十九條 賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ
 通信スルヲ許ス

第一百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル
 水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與
 シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必需品又ハ食物ヲ購求ス
 ヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第一百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ錄シテ檢察官
 及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

七三一
 第一百二條 懲治人第一百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下

ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

第三章 懲罰

第三百三條 已決囚獄則チ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰

大

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ
服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與
ヘス

四 閤室 閤室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品
ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

第四百四條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閤室ハ七晝夜ヲ限ト

大

減食閤室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之
ヲ科スルコトヲ得

第四百五條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則チ犯ストキハ其輕重
ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以內ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラズ

第四百六條 獨愼ハ七晝夜以內減食ハ三日以內トス

第四百七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者教令ニ順ハス或ハ同監ノ
者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯ストキハ所犯ノ輕重ヲ量リ第三百三
條第四百五條ニ準擬シ減食スルコトヲ得

第四百八條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受タルトキハ賞表一個又ハ數個ヲ

○四一
褫奪ス

第九條 無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ三月以上五年以下兩脚又ハ一脚ニ鉄ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鉄ニ貫キ腰間ニ縲帶セシメ縲帶ノ所ニ下鍵ス但監房ニ在ルモ晝間ハ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應ジテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス其外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯伴ノ法ニ從フ

第十條 減食或ハ監室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診

視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ

第十一條 屏禁減食監室又ハ獨愼ノ罰ニ處シタル後ハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ窺察シ狀況ニ由リ醫師及ヒ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムルコトアルヘシ

第十二條 罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ル、トキハ之ヲ免スルコトヲ得

第十三條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以下之ヲ拘置スルコトヲ得

(典獄(檢印)) 懲治人名籍 主檢 書記(氏名印)	
本出生地 何國郡村 國郡村番地住何某 族籍何某 某年月日生 某年月何年何月何年何月	年氏族出本 齡名籍地管 何國郡村 國郡村番地住何某 族籍何某 某年月日生 某年月何年何月何年何月
懲治人及ヒ 尊屬親ノ營業 懲治人ノ營業 主願者ノル尊屬親ノ營業	懲治人ノ營業 主願者ノル尊屬親ノ營業
親屬 父母兄弟及ヒ配偶者等ノ有無	父母兄弟及ヒ配偶者等ノ有無
入場ノ年月日 明治何年月日午前第何時入場	入場ノ年月日 明治何年月日午前第何時入場
入場ノ事狀 長何尺何寸何分肥瘠強弱	入場ノ事狀 長何尺何寸何分肥瘠強弱
身材 長何尺何寸何分肥瘠強弱	身材 長何尺何寸何分肥瘠強弱

(一) 眞括弧ヲ付スル者及ヒ下段ハ總テ朱字以下同シ

容貌音聲 面黧眉毛耳自鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子癭瘰癧黑痣癩風天鰲創癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス 入場ノ時文字ヲ知ヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 入場後進學ノ景况 何宗或ハ宗門不詳	教育及門 入場ノ時文字ヲ知ヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 入場後進學ノ景况 何宗或ハ宗門不詳
入場中ノ賞罰 明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	入場中ノ賞罰 明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信贈答ノ月日 何年何月日何國郡村住親屬若クハ朋友ニ書信來發	書信贈答ノ月日 何年何月日何國郡村住親屬若クハ朋友ニ書信來發
懲治場ニ留置 ノ宣告ヲナセ ン裁判所 明治何年何月何日某裁判所ニ於テ若干年月日留置ノ宣告	懲治場ニ留置 ノ宣告ヲナセ ン裁判所 明治何年何月何日某裁判所ニ於テ若干年月日留置ノ宣告
襲ニ處斷ヲ經 シ者ナル時ハ 其事由 犯山ノ大畧及ヒ某裁判所	襲ニ處斷ヲ經 シ者ナル時ハ 其事由 犯山ノ大畧及ヒ某裁判所
事變 明治何年月日病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移ス	事變 明治何年月日病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移ス
放還 明治何年月日某家ニ放還	放還 明治何年月日某家ニ放還

一典獄(檢印) 未決者名籍		主檢		書記(氏名印)	
本管地籍名	出生地籍名	家族名	年氏	營業及ヒ親屬	乳兒提携
某管下國郡村番地住又ハ何某子弟妻女	何國郡材町	何國郡材町	某年某月某日生	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無	男或ハ女 收監ノ時何歳何ケ月
入監ノ年月日 時及ヒ事件	身 材	容貌 音聲	入監ノ年月日 時及ヒ事件		
明治何年月日午 後第何時入監	長何尺何寸何分肥瘠強弱	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子 瘰癧黒痣癩風天鰲創瘻ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス			

終 結	事 變	保 釋 責 付	當該官ノ氏名	書信ノ贈答 ヲ許ス月日	入監中ノ賞罰	教 育 及 宗 門
又ハ他監押送	明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行	明治何年月日保釋若クハ責付	裁判長ノ氏名死刑ハ裁判長ノ外其行刑ヲ臨監セシ官吏ノ氏名	明治何年月日何國郡材町住親屬若クハ明友ニ書信來	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
	明治何年月日病死或ハ脱監					

〔典獄(檢印)〕 己決囚名籍		主檢		書記 (氏名印)	
本出生地管	何國郡村	某管下國郡村番地住又ハ何某子弟妻女	何	某	某年某月某日生
年氏族	何國郡村	族籍	何	某	某年某月某日生
營業及ヒ親屬	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無				
乳携兒	男若シハ女 收監ノ時何歳何ケ月 父母ニ先テ出監シ或ハ死去シタルトキハ之ヲ詳記ス				
刑名及ヒ宣告ノ月日	何刑若干年月日 明治何年月日何裁判所ニ於テ宣告				
收監ノ年月日	明治何年月日午前第何時入監				
犯由ノ大畧及ヒ犯數	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大畧ヲ記ス若シ再 三犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ其裁判所ニ於テ何刑ニ處セラル				

身材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
容貌音聲	面無眉毛耳鼻口ノ孔々面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧瘰癧黒痣癩風天皰瘡癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス
教育及ヒ宗門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
入監中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信贈答ノ年月日	明治何年月日何國郡村住親屬若クハ朋友ニ書信來發
假出獄免幽閉	明治何年月日何日假出獄或ハ免幽閉
事變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監 或ハ何罪ヲ犯シ復ク未決監ニ入ル
終結	明治何年月日滿期放免又ハ特赦

假出獄之證票

某管下國郡町番地住又ハ何某子弟妻女

族籍 何

某年某月某日生
明治何年何月何年何月

身 材

名籍ノ様本ニ倣
ヒ詳記スヘシ

容 貌

上ニ全シ

罪 質 犯 數

刑 名 刑 期

及ヒ附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受
ケ何年月日ヨリ執行何年月日滿期

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何
地ヘ約テ何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住宅
ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事

一此者ハ本刑期限閉特別監視ニ付セラレタル事
一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數
ハ刑期ニ算入セラレサル事
一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滞留スルトキハ滞留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ
受ケ居住地ニ到着ノ上此證書ト共ニ居住地ノ警察官ニ差出スヘキ旨申渡シタル事
右之通心得サセ假出獄ノ證票ヲ與フル者也

明治何年 月

日 印

某 監 獄 署

長 何 某

印

○假出獄ヲ受タル者所有金アルトキハ此證票ノ裏面若クハ欄内ニ左ノ二款ヲ
附記スヘシ

一此者ノ所有金ハ當監獄署ヨリ其居住スヘキ地ノ警察官ニ送り遣シタル事
一警察官ヘ送り遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何日ニテ受取得ヘキト雖モ
同官ニ於テ正當ノ入用ナリト認定ノ上ニ非レハ一次ニ之ヲ渡サ、ルヘキ事

一五一

書信紙 ○ 明治 年 月 日

[Blank area for writing the letter]

一五〇

何管下某監獄署 ○ 在監人

料紙半紙

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ
一書信ノ文句規則ニ背キタルヲアルトキハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルヲ
アルヘシ

[Blank area for writing the letter]

二五一

明治十四年十月二十四日太政官第九拾號達官省院使

監獄則第五十一條中左ノ通追加候條此旨相達候事廳府縣

十分シテノ下(重罪囚ニハ)ノ五字其一分ノ下(輕罪囚ニハ其二分)ノ八
字未決者ノ下并ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人)ノ十八字ヲ
加フ

囚徒服役時限表

月名	時限	起	床	就	役	小	憩	午	飯	罷	役	晚
一月	午前七時〇二分	午前八時〇二分	午前第十時ヨリ	正十二時ヨリ	午後三時三十分	一時二十						
二月	六時三十八分	七時三十八分	第十時ヨリ	十二時ヨリ	三時五十分	一時三十二						
三月	六時〇六分	七時〇六分	同	同	四時	一時五十二						
四月	五時三十二分	六時三十二分	第九時四十分ヨリ	同	四時三十分	一時五十二						
五月	五時〇一分	六時〇一分	第九時ヨリ	十一時三十分ヨリ	五時	一時五十二						
六月	四時四十九分	五時四十五分	同	十二時ヨリ	五時二十分	一時五十二						
七月	四時五十分	五時五十一分	同	同	五時十分	一時五十二						
八月	五時十六分	六時十六分	同	同	四時五十分	一時五十二						
九月	五時四十八分	六時四十八分	第九時五十分ヨリ	十二時ヨリ	四時二十分	一時五十二						
十月	六時二十二分	七時二十二分	第十時ヨリ	同	三時四十分	一時四十二						
十一月	六時五十二分	七時五十二分	同	同	三時二十分	一時四十二						
十二月	七時〇八分	八時〇八分	第十時ヨリ	五十二時ヨリ	同	一時三十二						

約テ日出ノ時刻
ヲ以テ起床ノ時
刻トナス然ルニ
年々季節ニ早晚
アリ日々分秒ニ
差刻アリ加ルニ
東國西國ノ別ア
リ此ニ由テ何レ
ノ地方ニ於テモ
分秒ノ差異ナキ
ヲ保ツ能ハス故
ニ月毎ニ大約之
ヲ平均シテ姑ク
其起床時刻ヲ登
載ス各地ノ司獄
官此表ノ區別ヲ
準トシ宜ク裁
酌シテ役囚ヲ遇
スヘシ

右ノ時間
工器ヲ併
ヒ餐浴等
ノム

役	晚	飯	還	房	服役時間合計
時三十分	一時二十八分間	午後四時五十八分	六時二十八分間		
時五十分	一時三十二分間	五時二十二分	六時五十七分間		
時	一時五十四分間	五時五十四分	七時三十五分間		
時三十分	一時五十五分間	六時二十八分	八時三十八分間		
時	一時五十八分間	六時五十八分	八時五十九分間		
時二十分	一時五十四分間	七時十四分	九時〇五分間		
時十分	一時五十九分間	七時〇九分	八時四十九分間		
時五十分	一時五十四分間	六時四十四分	八時〇四分間		
時二十分	一時五十一分間	六時十一分	八時十二分間		
時四十分	一時四十九分間	五時三十七分	七時〇三分間		
時二十分	一時四十八分間	五時〇八分	六時十三分間		
上	一時三十二分間	四時五十二分	六時十一分間		

右ノ時間ニシテ
 工器ヲ併理シ及
 ヒ餐浴等ヲ爲サ
 シム
 約テ日没ノ時刻
 ナテ入監ノ時
 トナス

明治十五年二月十日出版御屆
同 年三月 刻 成

定價金五十錢

閱 者

椽木縣士族
淺井佐一郎
府下東區大手通一丁目十四番地寄留

編 輯 人

福嶋縣平民
多治比裕雄
府下東區北濱四丁目六番地寄留

出 板 人

大阪府平民
岡島真七
府下東區本町四丁目五十九番地

印 刷

同 支 店
岡島活版所
府下東區本町四丁目六十番地

淺井魁編輯

刑事 審判手續

全壹冊 洋本

本書ハ刑法治罪法ヲ實施スルノ細則ニシテ或ハ新法ニ關シテハ布告及ヒ達ノ樞要ナルモノヲモ撰録シテ漏サス誠ニ法律者ノ一日モ筆右ヲ離ス可カラサルハ勿論公衆ト雖モ民權ヲ更張スルノ必要ニシテ即今陸續發行スルノ不完全ナル未書ノ類ニ非サレハ請フ江湖ノ諸君購求アラソコトヲ謹白

大橋齊注釋

佛國 治罪法對比注釋

全壹冊 定價 金一圓廿五錢

小山景正編纂

佛國 刑法對比合卷

全一冊 定價 金八十五錢

大政官公版雕刻

刑 治罪法 合卷

全一冊 定價 廿五錢

大坂裁判所藏版

一 諸罰則概表

全一冊 定價 金四十錢

佐藤茂一編著

日本憲法論纂

西洋仕立全一冊 定價 六十五錢

右書ハ東京日報記者及毎日記者在英京末松氏等ノ高論卓説ヲ纂輯シ又關外佛國憲法ヲ挿入シたるものあるが故ニ看者ノ大便なる言を俟ニせ實ハ當今必要ノ良書なり蓋荷も忠君愛國之士坐右ハ置キ日夕繙閱スル心則ち他日國家憲法制定の際其益を得る豈淺少あらん哉

一 土地 處分 地券例規全書

全壹冊 定價 金壹圓

一 同 二 版

十四年分 全一冊

此書ハ土地ノ管スル官省局布告布達及府縣ノ何指令ヲ盡ク編纂シ增加ハ追録シ廢除ハ背キ許多ノ規則ヲ諸記スルノ苦シミナク一繙覽然其簡其便獨リ當務者ノ緊要ノミナラズ土地ヲ所有スル者座石ニ欲可シサル必用ノ書ナリ

福岡廣業著述

刑名 刑法 解釋

全一冊

山内裕朗編輯

一 治罪 要 錄

全一冊 定價 金一圓三十錢

判事補淺井佐一郎編輯

政正 民事 覽要

甲篇全一冊 定價 二圓五十錢

本篇ハ維新革命ヨリ明治十二年ニ至リ發令セラル民事詞訟ニ樞要ナル官令ヲ撰録合輯セシモノナリ其類ヲ分ツテ四十一章ト爲シ逐條要旨ヲ摘採シ卷首ニ掲ケテ丁數ヲ附スルヲ以テ尤シニ便ナリ而テ既ニ改正成ル條件ハ原文ヲ略シ要領及ヒ發令年月日號ヲ記シ以テ其沿革ヲ知ラシム然レモ證券印稅受人證人辨償規則ノ如キ當時ノ定約存スルモノ之ヲ載録セリ或ハ卷中照合ス可キモノハ其條件ヲ記スルニヨリ一目シテ且亦沿革ヲ知ル可シ荷モ訴訟ニ關スルノ法令載セテ漏サス實ニ民事緊要ノ書ト爲ス諸君幸ニ購求アラソコトヲ乞

一 同 二 版

十三年分 全壹冊 定價 五錢

一 同 三 版

年々逐次刊行

一 同 乙 篇

增補同指 令之部

近刻

大坂上等裁判所藏版

一 官 令 摘 要

全一冊 定價 金二圓

津田眞一郎譯

一 泰 西 國 法 論

全一冊 定價 金廿五錢

小林義秀譯

一 政 體 論

全一冊 定價 金廿五錢

堀越愛國譯

一 經 濟 論

全一冊 定價 金三十錢

高橋建治譯

一 交 際 論

全一冊 定價 金廿五錢

若山正編輯

一 警 察 纂 要

全一冊 定價 金一圓

阪卷源太郎編輯

一 刑 法 一 覽 表

折本全一冊 定價 金十二錢

市石照編輯

一 輕 罪 刑 律 加 減 表

折本全一冊 定價 十二錢

何ノモ各地書林へ差出置候間其御最寄ニテ御購求之程奉願候

判事關邊井佐一郎
多治比裕雄 編輯

一 刑法新令類輯初編

此書ハ刑法治罪法ノ頒布明治十三年七月ヨリ
同十五年一月ニ至ル該法ニ關スル布告布達及
ヒ諸官廳達等ヲ編輯セラレシモノニシテ苟モ
法律ニ從事スル諸君ハ必ス座右欠クヘカモ
ル書ニシテ自今該法ニ係ル同指令等ヲモ新令
ノ出ルト共ニ隨テ錄シ隨テ編シ冊ヲ及ヒ成ス
ニ每六ヶ月逐次編纂セラレ弊鋪ニ於テ今般發
免ス請フ四方ノ君子陸續御愛覽アラントナ
宗勝三郎編輯

一 日本刑法特法備攷

右ハ本府警官宗勝三郎氏ノ編輯ニシテ新刑法
治罪法ニ係ル百般ノ布告達並諸表式ヲ基本ト
シテ之ニ干渉スル刑法治罪法及ヒ刑法附則監
獄則ノ條項ヲ蒐輯シ一令一符モ遺サ、ル無類
完全ノ者ナリ

一 刑法附則

正監獄則

全一冊 定價八錢
全壹冊 定價十一錢

宗勝三郎編輯

一 陸海軍刑法一般對比 全一冊

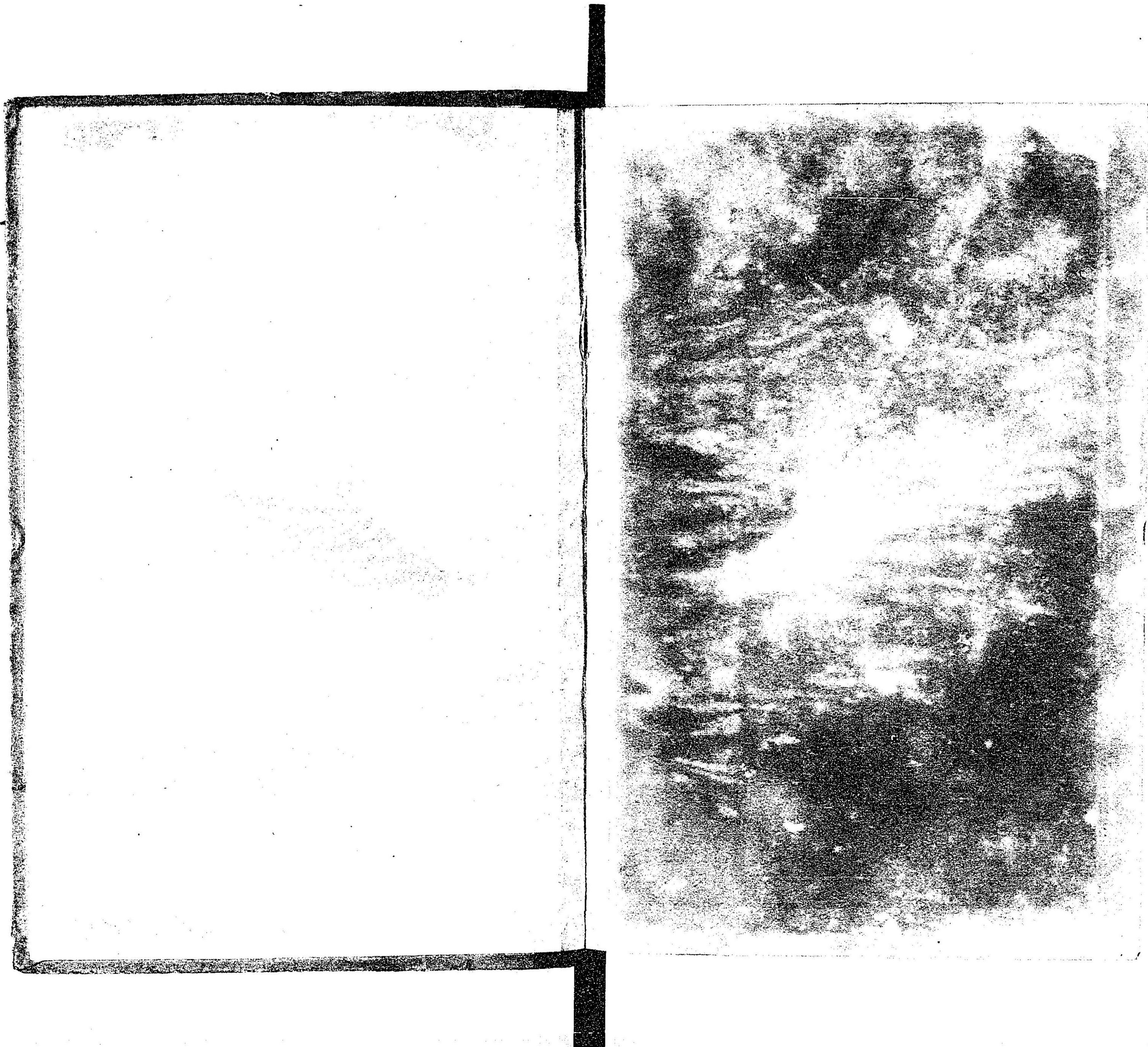
右ハ陸海軍新舊刑法及治罪手續并關係スル普
通刑法ノ條章ヲ對比シ附スルニ新舊法比照規
則及陸軍懲罰令ヲ以テシ一讀セハ法章ノ相于
涉スル所ヲ知リ得ルモノナレハ該法施行ニ關
係アル諸彦ハ勿論自餘ノ諸君モ坐右ニ闕ク可
カラサル良書ナリ

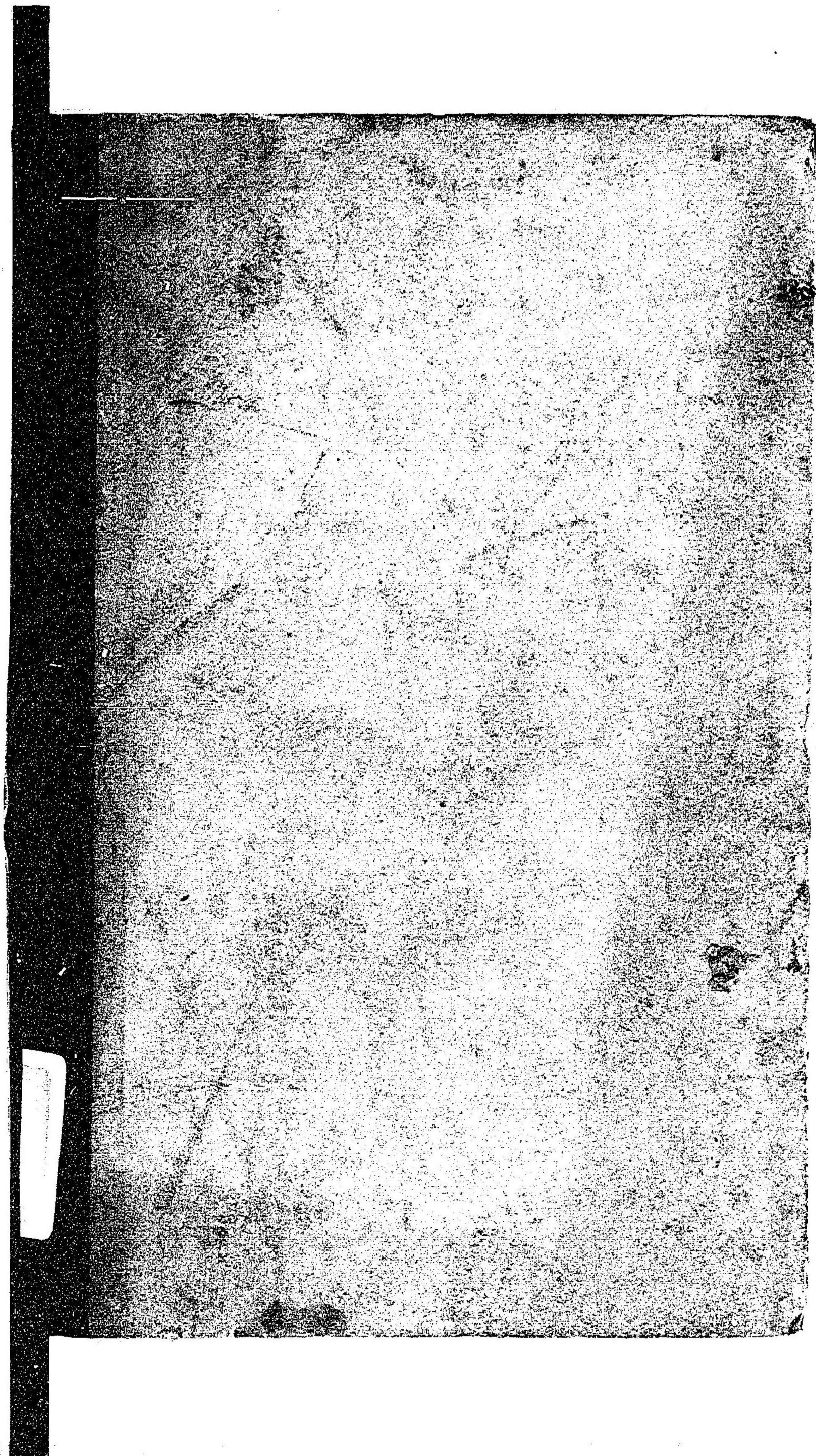
司法省出仕福岡廣業著

一 追告 刑法注釋大全 近刻 一冊

一 全治罪法注釋大全 近刻 一冊

刑法治罪法ノ注釋タル世間其數枚擧ニ暇アラ
ス然ルニ開々隔靴搔痒ノ感ナキ能ハス故ニ今
般其缺ヲ補ヒ加之上標ニ刑法治罪法布告以降
本年二月マテノ布告布達及ヒ司法省諸達刑
治罪法ニ關スル同指令内訓等ヲ擧ケ本條ト共
ニ注釋ヲ加ヘ讀ニ難キ文字ニハ傍訓ヲ施シ一
目瞭然官民ヲシテ疑念ヲ氷解セシムル良書ナ
リ





50
4
99

刑法新令類集

淺井佐一郎 檢閱
多治比裕雄 編輯

明治十五年三月印行

035856-000-1

CZ-711-053

刑法治罪法新令類輯

多治比 裕雄 / 編

M15

BBP-0442

